

瑞木小学校総合的な学習の時間で自衛隊の仕事をPR

埼玉地方協力本部（本部長 山口英章一等空佐）は十月三十日（木）、埼玉県三郷市立瑞木小学校において、総合的な学習の授業の一環「色々な職業を学ぶ」に参加した。朝霞地域事務所長以下五名は、「自衛隊の仕事について学ぶ」を題材に六年生五十三名を対象に授業を実施した。自衛隊の服装を実際に見てもらったため、陸海空の迷彩服及び制服を着用し、始めに職種内容を含む自己紹介を実施した。児童達は迷彩服等姿の自衛官に好奇心旺盛な表情を浮かべながら熱心に隊員達の話に耳を傾けていた。

次に小学生が興味を持ってもらえるような絵や図を用いたスライドを使用し、自衛隊の任務と役割の説明を実施した。説明の合間に児童達に問いかけるコミュニケーションを計ることにより、何人もの児童が積極的に回答する等、活気ある授業となった。

また、南極の氷の展示及び説明では南極の氷に関するクイズを出題し、氷から音がする理由を説明した後、児童一人一人に手に取ってもらうた。児童達は「氷に耳を近づけ耳を澄ましていた。氷のはじける音が聞こえる」と「聞こえた、ほう」と児童同士や先生も含めた会話が至る所で繰り広げられた。授業の後段は戦闘糧食、高機動車及び個人装具等の説明を四グループに分け隊員による説明を実施した。自衛隊の装備を見るのは初めての生徒がほとんどで、防弾チョッキや戦闘鉄帽を手に取り、想像以上の重さに驚いていた。

授業後は、教室で児童達と一緒に給食をいただき、より親睦を深めた。埼玉地方協力本部は今後も学校の授業や講演の依頼に対し積極的に取り組み、自衛隊を身近に感じるとともに、その活動を知ってもらえるよう尽力する所存である。



草加商工会議所祭で自衛隊をPR

埼玉地方協力本部（本部長 山口英章一等空佐）は、朝霞地域事務所担当により十一月二日（日）、草加市綾瀬川左岸広場において開催された草加市商工会祭に参加し、草加市父兄会の協力を得て広報活動を実施した。

当日は天候に恵まれ、約八万人がイベント会場に集まり、自衛隊をPRする絶好の機会となった。特に、高機動車の人気は絶大であり、見学のために長蛇の列が出来ていた。また、ミニ迷彩服を試着し、埼玉地本のゆるキャラ「サイボン（りく）」と一緒に写真撮影をする列も絶えることはなかった。

自衛隊の受験を考えている若者達も多数募集ブースを訪れ、熱心に広報官の説明に耳を傾けていた。ある親子からは、「防衛大学校について自衛官の方から直接話を聞き、将来必ず幹部自衛官になりたいという意欲が高まった」と力強い言葉を頂いた。

埼玉地方協力本部は、今後も担当する各地域で効果的な広報を実施していく所存である。



即応予備自衛官雇用企業主の方々が招集訓練を研修

埼玉地方協力本部（本部長 山口英章一等空佐）は、十月二十六日（日）、二十七日（月）の両日第三十一普通科連隊（連隊長 根本博之一等陸佐）が実施した即応予備自衛官招集訓練に、雇用企業主の方々五社六名を招聘した。

この研修は、即応予備自衛官を雇用する企業主の方々に対し、東富士演習場で実施される訓練状況を研修していただき、即応予備自衛官制度の普及と訓練出頭への更なるご理解を得ることを目的に計画したものである。

雇用企業主の方々は、日頃社内では見ることのない、社員が隊員として訓練に臨む姿や、初めて見る自衛隊訓練を熱心に研修していた。また、戦車の体験試乗においても、その迫力に圧倒された様子であった。

意見交換会の場においては、雇用企業主の皆様から訓練担任部隊及び出頭した即応予備自衛官に対し、「皆さんに対する期待は常備の自衛官に対するものと変わりません。引き続き、訓練出頭には会社として最大限協力致しますので安心して訓練に励んでください。」との言葉が寄せられた。

埼玉地本は、今後も即応予備自衛官雇用企業主の方々に対して訓練研修や様々な企画を実施し制度の普及拡大に努める所存である。

